

上川教育研修センター協力校授業

旭川市立高台小学校第5学年 国語科 学習指導案

日 時 令和4年9月27日(火) 5校時 実施
 児 童 旭川市立高台小学校5年3組 33名
 指導者 藤矢 颯太

- 1 単元名 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう
 「たずねびと」 (光村図書 5年)

2 単元について

(1) 教材観

本単元に関わる学習指導要領の目標および内容(抜粋)は、次のとおりである。

【学習指導要領】～第5学年(国語科)の目標と内容～

1 目 標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内 容

【知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

○語彙

オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。

【思考力、判断力、表現力等】

C 読むこと

○精査・解釈(文学的な文章)

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

○共有

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

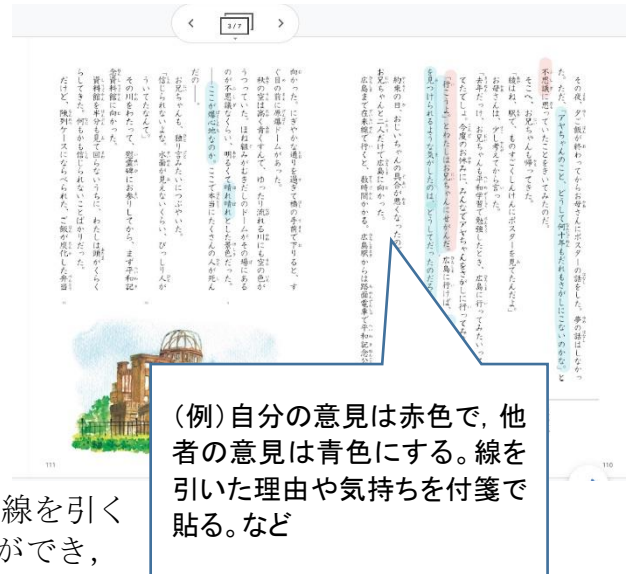
児童はこれまで、登場人物の会話や行動に着目し、人物同士の関わりを読み取る学習をしてきた。「読むこと」における前単元「なまえつけてよ」では、登場人物の心情が表れている表現を見付け出し、出来事を通して登場人物の相互関係について、描写を基に考える学習をしてきている。

本単元「たずねびと」では、指導内容C読むこと(エ)「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」を重点に指導していく。そのためには、主人公「綾」が戦争で亡くなった同姓同名の「アヤ」を尋ねていく中で出会う様々な「人・もの・こと」との出会いを通して変化していく綾の心情について、叙述を基に丁寧に読み取り、物語の全体像を豊かに想像させたい。自分たちと同じ11歳の「綾」に、自分を重ねて読むことにより、戦争や平和について様々なことを知り、気付き、自らの考えを深めていくことができる。自分の考え方の変化については、児童自身の経験によっても受け止め方が違ってくると思われるので、そのような考え方の相違点や共通点を共有することで、よりよい対話につなげていくことができる単元といえる。

③ Jamboard の活用

教科書の本文を Jamboard に貼り付け、主人公「綾」の心情を表す描写に線を引かせる。教科書ではなく、Jamboard を活用するメリットとしては、

- ・間違いを気にせずに線を引くことができ、間違っただとしても、簡単に消すことができる。
- ・ワークシートに叙述を書き写すのが苦手な児童にとって、取り組みやすく、また自分の意見と友達の意見を色分けすることで、考えを整理することができる。
- ・Jamboard を持ち寄って、話し合いながら線を引くことで意欲的に話し合いに参加することができ、学習意欲が高まると考えられる。
- ・効率的に学習に取り組むことで、より多くの交流の時間が確保することができ、深い学びにつなげることができる。
- ・児童と教師の間では、情報が共有されているため、教師は個々の児童に対して適切な指導を行うことができると考えた。



3 単元の目標と評価規準

研究内容（1）目標と評価の一体化

- ・ 単元目標の明確化
- ・ 目標と評価の位置付け

(1) 単元の目標

- ① 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
〔知識及び技能〕（1）オ
- ② 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）エ
- ③ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C（1）カ
- ④ 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合うことができる。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 ・ 「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 	・ 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

(3) 単元で取り上げる言語活動

物語を読んで理解したことに基づいて、物語に対する思いや考えを伝え合う。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)イ)

4 単元の指導計画と評価計画

研究内容(2) 指導計画・評価計画

・単元構成の工夫

(1) 単元の指導計画について

単元構成の工夫としては、既習内容や経験と関連付けた思考の促進を意識した単元構成となるようにした。単元全体を大きく3段階に分けて指導していく。

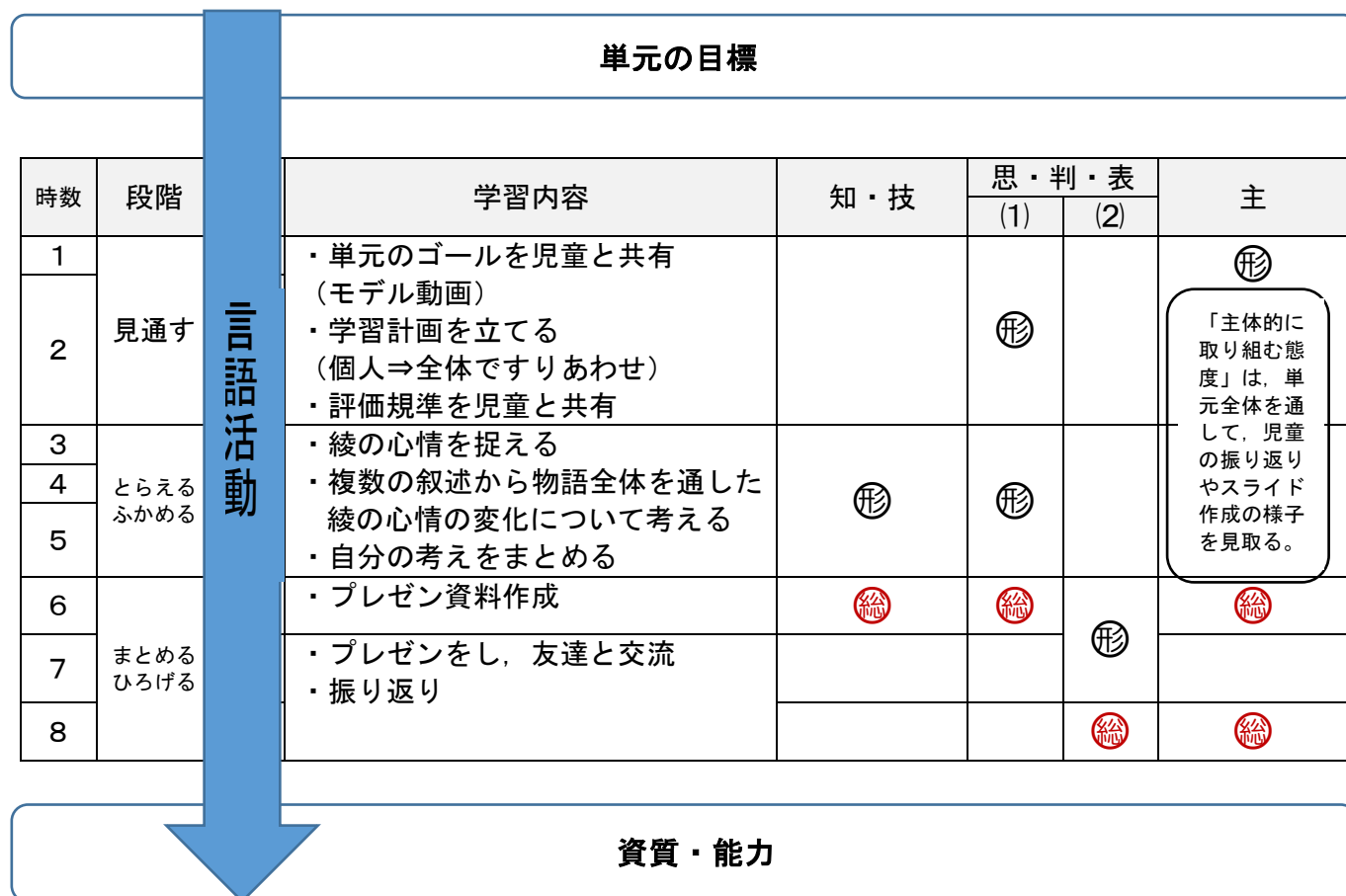
第1次：単元の導入では、「綾」が一番影響を受けたものは何かを見付けるために、心情を表す言葉に着目して読み、物語の全体像を捉える学習をしていくことを押さえる。この時に、プレゼンの例を提示し、「プレゼンをして自分の考えをみんなに伝えたい。そのために、「綾」の心情の変化から、一番影響を与えたものは何かを読み取っていきたい。」という意欲付けと見通しをもって活動できるよう工夫していく。また、単元のゴールからどのような学習が必要かを考え学習計画を立てていく。自分たちで立てた学習計画だからこそ、子供たちは、自らの課題を解決していきたいという意欲を高め、主体的に取り組んでいけると感じる。

第2次：単元の展開部分では、広島へ行く前と後に注目し、「綾」の心情の変化や表現の効果などを交流しながら、物語の内容の理解を深めていく。児童は、第1次で把握した全体像から「綾」の心情に変化があったことを漠然と理解しているため、具体的にどのような変化があったのか、それは何がきっかけになったのかを考えていく段階である。よって、単元の言語活動であるプレゼン資料の作成に大きく関わる段階ともいえる。そのような段階であることを、単元計画を立てる際にも児童と確認しながら進めることで、児童は目的意識をもって物語を読み進めることができると考えた。

第3次：単元のまとめでは、プレゼン資料の作成や、実際に児童同士でプレゼンし合う活動を通して、交流を深め学習の達成感を味わわせるような指導を行いたい。また、プレゼン資料作成の際には、プレゼン資料のモデルを複数準備しておく。自分に合ったモデルを自ら選択することで「児童の表現したい」という意欲を更に高めることができると考えた。

また、単元の第1次から第3次までの区切りで、振り返りを行い、単元のゴールに向けて主体的に取り組めるように工夫した。また、記述の振り返りのみではなく、学習したことをその都度プレゼン資料の作成に反映させることで、毎時間子供たちが学びの成果を実感したり、次時への見通しをもち、自己調整をしながら学習を進めたりすることにもつながると考えた。

【指導計画と評価計画のイメージ図】



(2) 単元の評価計画について

・形成的な評価について

「知識・技能」の評価については、主に児童が Jamboard を活用し、「綾」の心情を読み取るのに必要な叙述に、線を引くことができているかに着目して評価していく。手立てが必要な児童に対しては、「国語の技」フォルダの活用を促したり、他者の考えを参考にしたりするように指導を行う。

「思考・判断・表現」の評価については、主に児童が「綾」の心情の変化を読み取るために活用するワークシートへの記述に着目して評価していく。また、児童は学習計画をもとに、1時間ごとに設定した課題の達成度を◎・○・△で自己評価できるようにしている。教師は、児童の自己評価を活用し、指導が必要となる児童をある程度把握し、さらに、授業で活用するワークシートへの記述をもとに適切な指導を行う。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、主に児童が上記で示した「思考・判断・表現」における学習活動を進めていく際に必要となる、粘り強さや自らの学習を調整する力を発揮する姿を評価していく。具体的には、物語の全体像や「綾」の心情の変化を捉えるために、繰り返し本文を読み返したり、読み取りに必要な叙述に積極的に線を引いたりするなどの姿から粘り強さを見取ることができると考えた。また、プレゼン資料の作成に向けて、「国語の技」フォルダを活用したり、友達との意見交流を積極的に行ったりする姿から自らの学習を調整する姿を見取ることができると考えた。このような児童の学習に向かう姿勢は、振り返りにも表出すると考えられるため、形成的評価の充実に生かしていきたい。

- ・総括的な評価について

「知識・技能」の評価については、「綾」に関する叙述を見つける活動と Keynote を活用してスライドを作る活動を中心に行う。教科書に線引きされた叙述や情景描写などの表現を適切な意味合いで捉えることができているかどうかを総括的な評価とする。

「思考・判断・表現」の評価については、スライドに自分の考えをまとめたものを中心に評価を行う。スライドの中には、叙述を基に考えた「綾」に最も影響をあたえたものが書かれている。物語全体で「綾」の心情にどのような変化があったかを捉え、それを基にスライドを作成できているかを見取る。また、他者との交流を通して物語に対して自分の考えを広げている姿も同時に見取っていく。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、「思考・判断・表現」における学習活動に向かう児童の姿を通して評価を行っていく。スライド資料の作成に必要な読み取りに粘り強く学習に取り組み、綾に最も影響をあたえたものについて表現できているかを見取る。また、振り返りシートを活用し、前時の反省を生かして学習に取り組んでいるかなども同時に見取り、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組んでいる姿を評価していく。

研究内容（3）個別最適な学び、協働的な学び

・指導の個別化 ・学習の個性化 ・協働的な学び

①指導の個別化

児童一人一人の学習進度や能力・関心に応じて多様な学びが実現できることが理想である。そこで、本単元では、「綾に一番影響を与えたことは何か。」という学習課題を解決するために、自分の既存の知識や経験を織り交ぜながら読みを進めていくことができるようにする。複数の叙述から自分が考えた「綾に影響を与えたこと」を導き出すことができるように、読むことに対する手立てとして、叙述を見付ける場面では活動を3つに分けた。

- ・「綾」の気持ちが直接描かれている叙述に線を引く
本文の中には、心の内の言葉（心内語）が多く見られる。その文章の語尾は「～だろう」「～かな」など口調で書かれていることが多いことに気付かせる。また、「国語の技」フォルダにある気持ちを表す言葉を見ながら、本文の中でそれが使われていないかを確認することで、「綾」の気持ちを表す叙述を理解することにつながる。
- ・「綾」のセリフや行動、視点、情景に注目させて線を引く
「綾」の気持ちを表す叙述は、セリフや行動、見ているものの中に含まれていることは第4学年で学習している。前学年の「ごんぎつね」や「一つの花」などの学習を思い出せるよう、どのような読みをしたのかを「国語の技」フォルダに入れ、叙述を見付けさせる。
- ・意見の共有を図り、考えの根拠を見付ける
児童の実態を踏まえると、自分の考えの根拠を明確にして説明することが苦手な児童や自分の考えに自信がない児童が多く見られる。そこで、Jamboard を活用した意見の共有を図ることで、自分と同じ考えの人の意見を取り入れながら、自分の見付けた叙述の根拠を確認することができる。

第2次のうち、第3・4時では、前半と後半の「綾」の心情の変化について読み取る活動が設定されているが、この場面での振り返りの記述から、個別の課題点を見取り、つまずきや困り感をもつ児童に対して、手立てを講じていく。

また、子供たちが必要なタイミングで必要なデータを見たり活用したりできるようにGoogleドライブ内に「たずねびと」というフォルダを作り、いつでも学習の足跡を確認できるようにした。

本時では、『「綾」の気持ちの変化以外に見方や捉え方が変わったものについて考える』という学習活動を設定している。この活動を通じて、子供たちが物語を叙述だけではなく、情景描写などの多角的な視点で見ることで、全体像をより捉えやすくできると考えた。前時まで、物語の全体像を捉え、前半と後半で「綾」の気持ちの変化があることは理解できたが、それが何によって変化したのかを読み取ることが困難である児童に対して、気持ち以外の観点に着目させ、それが「綾」にとってどんなものになったのかを考えさせることで、物語の変化を捉えることができると考えた。前時まで、気持ちの変化が十分に読み取れている児童は、本時の学習を通して、根拠を基により明確に気持ちの変化を捉えることができる。

②学習の個性化

同じめあてであっても児童一人一人によって興味をもつところや大事にしたいところは異なることが多い。そこで、学びに対して児童一人一人の学びの意識を高めるためには、自己決定させる場を意図的に組み入れることで学習の個性化が図られていくと考えた。本単元では、「『綾』に最も影響を与えたことと、その理由についての叙述を基にプレゼンをする」という言語活動を設定することにより、児童は個々に根拠となる叙述を選び、プレゼン資料を作成していく。また、今回、教科書の本文は、Jamboardを活用して読み進めていくが、学習の中で得た知識や情報、他者の意見などを自身のJamboardに書き込んだり、付箋を貼ったりして蓄積していくことで、単元のゴールを見通しながら、自ら学習を調整することができると考えた。

本時では、「綾」の気持ちの変化やそれ以外の変化（川や名前に対する捉え方の変化）について全体で考えた上で、それぞれの児童が最も影響を与えたことは何かについてこれまでの学習を振り返りながら考えていく。そこでは、ワークシートを活用したり、これまでの学びの足跡として蓄積されてきた「国語の技」フォルダを参考にしながら自分の考えを形成していく。

④協働的な学び

協働的な学びについては、叙述に関する考えの交流や他の児童の良い表現を参考にするなどを通して、自発的に活動に参加し、単元のゴールに向けて挑戦する姿勢を目指す。ICTを活用しながら、どうしてその叙述に線を引いたのか、どうしてその表現に注目したのかを交流することで、自分の曖昧だった意見を根拠付けたり、他者との考えの違いに気づき、自分の考えを深めたり、表現の効果について考えることができる。子供たちが必要なタイミングで友達の考えを見ることで、自分の考えを深める場面を設定し協働的な学びにつなげていきたい。また、スライドを作成する場面において、児童同士が伝えやすい方法や工夫を共有しながら活動することで、よりよい学びが実現すると考える。

本時では、「綾」の気持ち以外の変化（川や名前に対する捉え方の変化）を前半と後半でどのように変化したかを交流する活動を取り入れている。「綾」の気持ちの変化とともにものの見方や捉え方が変化していることを学習することで、最も影響を与えたことに対してより明確な根拠をもって単元のゴールに向かうことができると考えた。

また、最も影響を与えたものについて考える活動の中で、最も影響を与えたものが同じ人になぜそれを選んだのか、どの叙述に根拠として選んだのかを交流することで、より学びを深められると考えた。

(3) 単元の指導計画と評価計画

内容や時間のまとまりにおいて目指す児童生徒の姿				
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
①それぞれの場面で、「綾」が出会ったものや人について整理している。 ②登場人物の心情を表す表現に線を引き、適切な表現かどうか理解している。 ③登場人物の心情を表す表現を使い、プレゼン資料を作成している。	①物語について、どんな場面があるかを想像しながら読み、感想を書いている。 ②物語の流れを把握し、それぞれの段落に適切な見出しをつけている。 ③表現の効果に着目しながら、「綾」の心情について自分の考えをまとめている。 ④物語の全体像から、「綾」の心情の変化について自分の言葉でまとめている。 ⑤「綾」に最も影響を与えたことについて、叙述を基に自分の考えをスライドにまとめている。 ⑥最初の感想と比べて変化したことや学習を通して学んだことを感想に書いている。	①単元のゴールに向けて、何が必要かを考え、学習計画を立てようとしている。 ②叙述を基に、粘り強く物語の全体像や人物の気持ちを想像し、スライドに表現しようとしている。 ③物語を基に読み取ったことと関連させながら、思いや考えを伝え合おうとしている。		
		評価（白抜きの数字は総括的な評価）		
	学習活動	知	思	態 方法
〈第1次〉 1. 2.	○主人公である「綾」に対して、最も影響を与えたことは何か考えてまとめ伝え合う活動に対して、学習計画をたて、見通しをもつ。 ・単元名から話の内容を想像する。 ・本文を読んで感じたことや疑問に思ったことを書く。 ・単元のゴール『「綾」が最も影響を受けたものについてまとめてプレゼンしよう』を設定する。 ・ゴールを達成するために必要なことを考え、学習計画を立てる。 ・「綾」が最も影響を受けたものについて考える。		①	① ・行動観察 ・感想シート ・単元シート ・発言
	○物語の内容の大体を捉える。 ・本文を読み、日時や場所の変化に注目しながら8つの段落に分ける。	①	②	

	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールに向けて、「綾」が出会ったもの、場所、人について整理する。 ・「綾」に影響をあたえたことが、出会ったものや場所や人に関係することを捉える。 ・整理したものを基にその場面でどのようなことが描かれているのか、物語の全体を捉えながら、見出しをつける。 ・物語が広島に行く前と行く後の描写で大きく前半と後半に分かれていることを理解する。 ・第1次の振り返りをする。 				
<p>〈第2次〉</p> <p>3・4・5 (本時)</p>	<p>○物語の全体像を捉えるために読み深めるテーマを絞り理解を深める。</p> <p>① 広島に行く前の「綾」の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半部1～4段落で「綾」に関する叙述を見つけ、教科書(ジャムボードで共有)に線を引いたり、情景描写を探したりして、その時の「綾」の心情を想像する。 ・線を引いた部分をグループで交流し、なぜそこに引いたのかを話し合いながら考えを深める。 ・グループで出た意見の中で段落ごとに一番気持ちを表していると感じる叙述(共通点を見つける)を発表し、全体でワークシートに書き出し、その時の気持ちを考える。 ・ワークシートの記述を基に、「綾」は広島に行く前にどのような気持ちであったか(なぜ広島に行こうと思ったのか)を考え、まとめる。 <p>② 広島に着いてからの「綾」の思いについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半部5～8段落で「綾」に関する叙述を見付け、教科書(ジャムボードで共有)に線を引いたり、情景描写を探したりして、その時の「綾」の心情を想像する。 ・線を引いた部分をグループで交流し、なぜそこに引いたのかを話し合いながら考えを深める。 ・グループで出た意見の中で段落ごとに一番気持ちを表していると感じる叙述(共通点を見つける)を発表し、全体でワークシートに書き出し、その時の気持ちを考える。 ・表現の効果を考えるために、「頭がくらくらしてきた。」や「うちのめされる気持ち」、「気が遠くなりそう」などの表現に注目し、その時の気持ちを考える。 ・7段落のおばあさんとの出会いの場面で、「綾」の気持ちと同時におばあさんの気持ちも読み取る。 	<p>②</p> <p>②</p>	<p>③</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・ワークシート ・単元シート ・感想シート ・ジャムボードでの記述

	<p>(本時)</p> <p>③「綾」の気持ちの変化についてまとめ、最も影響を与えたことは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの変化の他にももの見方や捉え方が変わった部分について考える。 ・「川」や「名前」という描写について、他の段落で出てきた箇所と比較しながら、どのような捉え方に変化したのかをジャムボードにまとめていく。 ・これまでの学習活動を踏まえ、全体像を捉えながら、前半と後半で綾の気持ちがどのように変化したかを①と②のまとめを使いながら「初めは〇〇(①)だったが、□□(本時を通して考える)を通して、△△(②)になった。」の形式でまとめる。 ・次回の活動に見通しをもつ。 ・第2次の振り返りをする。 	②	④		
<p>〈第3次〉</p> <p>6 7 8</p>	<p>○ワークシートやJamboardを手がかりにKeynoteを活用して、綾が最も影響を受けたことについてまとめたスライドを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1時で提示したモデルを参考に、最も影響を与えたこと、その理由(叙述を基に)を考える。 <p>○作成したスライドを交流し、単元全体の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたスライドを発表し、交流する。 ・他の人の意見を聞いた上で、学習を通じた感想を書く。 ・感想を発表する。 <p>○単元を通しての振り返りをする。</p>	③	⑤	②	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・スライド ・感想シート ・単元シート

5 本時の学習（8時間扱い 5 / 8）

(1) 展開

1 単位時間の問題文
 1 単位時間の学習課題
 まとめ
 白抜き 研究との関わり

教師の活動	児童の思考と手立て
<p>1 前時までの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習計画を確認し、単元のゴールを確認させる。 前時までのワークシートを確認させる。「綾の前半と後半の気持ちを、叙述を基に読み取ることができたね。」 <p>2 学習活動の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 「綾」の気持ちの変化をまとめ、最も影響を与えたことは何か考える。「単元のゴールに向けて、気持ちの変化は何がきっかけだったのか考えよう。」 本時のめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールは、『「綾」に最も影響を与えたことについてまとめる』だったね。 「綾」に関する叙述や情景に関する描写もたくさん書いたよ。 前半と後半の気持ちがあったから、気持ちの変化はある程度分かった。
<p>物語の全体像を見つめ直し、「綾」に最も影響を与えたことは何か考えよう。</p>	
<p>「前回までに物語の全体像を捉えるため、「綾」の心情について読み進めてきました。今日は、気持ち以外にも見方や捉え方が変化したものについて文章や表現に注目して読み、全体像を見つめ直し、その上で最も影響を与えたものは何か考えましょう。」</p> <p>3 全体像の見つめ直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半と後半で見方や捉え方が変わったものを探す。 前半と後半で「綾」の捉え方にどのような変化があったか、ジャムボードに記入する。 <p>協働的な学び</p> <p>指導の個別化</p> <p>前時までの「綾」の気持ちの読み取りで前半と後半で気持ちに変化があることは理解できたが、そのきっかけを探するのが困難な児童に対して、「変化」という視点に着目して、気持ち以外のものの見方や捉え方を考えさせることで、きっかけをより絞ることができるようにし、単元のゴールに向けて学習の自己調整を図れるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「川」「名前」「お兄ちゃん」「橋」かな。 前半の「川」はただの川で、後半の「川」は戦争で亡くなった人が実際に流れていた川。 前半の「名前」は意味のない名前だったけど、後半の「名前」は、忘れ去られた人や探されている人を意味するんじゃないかな。 前半の「お兄ちゃん」はすぐに帰るように急かしていたけど、後半は、戦争の悲惨さを知って綾の気持ちに同情している。

【予想される児童のつまずき】

形成的な評価

＜手立て＞

この学習活動そのものが前時までに気持ち変化は理解できたが、きっかけを見付けるのが困難な児童に対する手立てでもある。気持ちの変化以外にも「綾」が変わった部分があることに気付かせることで、単元のゴールに向けて自己調整を図る。この活動では、「川」や「名前」といったキーワードが他の児童から出てくることが予想されるが、本文の叙述にあるように「きれいな川はきれいな川でしかなかった」というのは、きれいな川がそうではなくなったという変化を明確に表している。その変化のきっかけは、川の描写の間にあることを気付かせてあげることで、「綾」に影響を与えたものをその描写の間の中から絞ることができると考えた。

4 考えの形成

**学習の個性化
指導の個別化
協働的な学び**

- ・前時までの学習と本時の学習を踏まえ、「綾」に最も影響を与えたことについて考え、その根拠となる叙述や注目するポイントを探す。

学習の個性化

- ・児童それぞれが単元のゴールであるプレゼン発表に向けて、最も影響を与えたものについてこれまでの学習を振り返りながら探したり、自分の考えの根拠となる叙述をワークシートや Jamboard や「国語の技」フォルダを手がかりに探したりすることで、学びを自ら調整することができる。

指導の個別化と手立て

形成的な評価

- ・最も影響を与えたものが見付けられない児童は、概要シートの「綾」が出会ったものを参考に選択できるようにする。
- ・選ぶことはできたが根拠を探し出せない児童に対して、そのものや人との出会いの場面をもう一度確認させ、その場面で線を引いた叙述に注目させる。その手立てで不十分であった場合、例えば「おばあさん」を選んだ児童は、おばあさんとの出会いで「綾」は何を知ったのか、その知ったことに対して前半ではどのように感じていたのかを問い返したり、ワークシートや Jamboard を見返したりするよう促す。
- ・児童の前時までの Jamboard の記述を基に、「綾」に関する叙述を整理したものを「国語の技」フォルダに入れておくことで、それが「綾」の出会ったものの中で何に関係しているかを判断しやすくする。
- ・読み取りができていない児童に対しては、その時の気持ちを分かりやすく伝えるために、心情メーターなどの作成を促す。

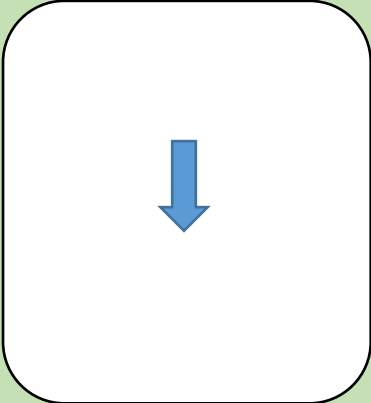
協働的な学び

- ・最も影響を与えたものについて、同じものを選んだ児童同士が、なぜそれを選んだのか、その根拠となる叙述は何かを交流することで、自分の意見をより具体的にしたり、他者との違いから学びを深めたりすることができる。

<p>5 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3時と第4時でまとめたワークシートを活用し、最も影響を与えたものについてまとめる。 	
<p>「はじめは〇〇だったが、□□をきっかけに△△になった。」の形式でまとめる。 「はじめは戦争ということに関してあまり理解がなかったが、実際に資料館に行ったことで、戦争の悲惨さを知り、これからこのようなことが起きてはいけないと感じた。」 (児童記述例) 学習の個性化</p>	
<p>6 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2次(第3・4・5時)を通した振り返りと次時への取り組みに対する振り返りを行う。 次回の学習では、スライドの作成を行うことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前半と後半で「綾」の気持ちの変化を読み取ることができ、そのきっかけについて自分の考えをもつことができた。次回は、今回のまとめを生かしてプレゼンを作成したい。
<p>今日までの学習で、物語の全体像をとらえることができたね。「綾」に最も影響をあたえたことについても、理由をつけて考えることができたね。次回は、今日のまとめで書いたことをスライドにまとめてみよう！</p>	

(2) 板書

はじめは〇〇だったが、△△を通して、□□になった。



はじめは〇〇だったため、△△を通して、□□になった。

前半

後半

★これまでの学習を確認し、自分の考えをより明確にしよう。

- 物語の全体像を踏まえた上で、もう一度叙述を探してみる。
- 気持ちの変化を分かりやすい言葉で考えてみる。

★「川」「名前」「お兄ちゃん」

物語を見つめ直し、「綾」に最も影響を与えたことは何か考えよう。

たすねびと

6 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

【研究内容（3）指導計画・評価計画】

【研究内容（4）観点ごとの総括】

(2) 指導主事の助言

《上川教育局教育支援課義務教育指導班 ○○ ○○ 主査》

①

②

《旭川市教育委員会教育指導課 ○○ ○○ 指導主事》

①

②

7 事後分析

(1) ○○○○○

本単元の学習では、○○○○（ねらい、大切にしたいこと、資質能力など）が大切である。そこで、△△△△△（具体的な手立て）した。

児童は、
.

(2) ○○○○○

本時の交流場面では、全文掲示で同じ叙述を本時においては、○○○○を目標とし、△△△△のように授業展開し、評価を（具体的な手立て）に行った。

その結果、
.
.